

家事シェアセミナー報告

家事はもっと楽になる～家族で実践！時短家事テクニク～

金沢市では6月、「家事えもん」でおなじみの、よしもと家事芸人・松橋周太呂さんを講師に招き、セミナーを開催しました。ぶんぶんボウルのおふたりが進行を務め、楽しく笑いを交えながら掃除から料理まで様々な時短家事のテクニクを教えていただきました。

参加者からは、「苦手な家事もやってみようと思った」「今日の情報を妻と共有して実践したい」など前向きな声が聞かれました。

セミナーの内容について詳しくは、ホームページをご覧ください。簡単な料理レシピや掃除テクニクを掲載しています。



金沢市女性センター ※



金沢市男女共同参画推進の拠点施設です

① 女性のエンパワーメント支援講座

女性が「自分らしく生きる」素晴らしさと出会い、充実した毎日を過ごせるよう、男女共同参画の視点で生活に密着した各種講座を実施しています。

② 貸館事業

女性の自主的な活動の場としての利用に提供しています。

①②の詳細は金沢市女性センターホームページをご覧ください。みなさまのご利用をお待ちしております。

お問い合わせ

金沢市女性センター
〒920-0861 金沢市三社町1番44号
(金沢駅より徒歩12分)
TEL 076-223-1265 FAX 076-223-6299



男女共同参画出前講座 ※



グループや団体、企業等が主催する研修会や勉強会に講師を派遣します。

【講座のテーマ】(一例)

- ◆ジェンダー問題ってなに？紙芝居で楽しみながら考えよう！
- ◆セクハラ・パワハラを生まない職場づくり
- ◆備えあれば患いなし！とっさの護身術
- ◆更年期とうまく付き合うために～女性のこころとからだを整える～

この他にもさまざまなテーマをご用意しています。お気軽にご相談ください。

対象 金沢市内に所在し、活動する企業、団体、グループ等
(15名以上の参加が見込まれるもの)

時間 30分～1時間程度(質疑応答を含む)

費用 無料

詳しくは、金沢市男女共同参画ホームページをご覧ください。



DV防止啓発シンポジウム ※

DV・児童虐待の背景や影響、その家庭への支援などについて考えます(託児・手話通訳・要約筆記あり)。

日時 11月2日(火) 15:15～16:45

会場 金沢市教育プラザ富樫 121・122 研修室

内容 DVが及ぼす被害者とその子どもへの影響について(仮)

講師 加茂 登志子 医師

若松町こころとひふのクリニック PCIT 研修センター長
一般社団法人日本 PCIT 研修センター代表理事

申込先 ダイバーシティ人権政策課

TEL 076-220-2095 FAX 076-260-1178
E-mail jinken@city.kanazawa.lg.jp



中学生向けキャリア教育支援 DVD

自由な未来のつくりかた
～性別にとらわれない仕事えらび～

性別で生き方を制限することなく、個性豊かに自分らしく生きていくことの大切さに気づき、多様な選択ができるようになることを目的にDVDを作成しました。金沢市内でこれまで異性が就くことが多かった職業に就き、いきいきと働いている方々取材した内容となっています。

金沢市公式 YouTube からご覧いただけます。



性別による職業の思い込みはありませんか？



※新型コロナウイルス感染症の状況により変更となる場合があります。詳細についてはお問い合わせください。

女性相談支援室 (配偶者暴力相談支援センター)

夫婦問題、離婚などの不安や悩みの相談

配偶者や交際相手からの暴力などの不安や悩みの相談

生活、その他女性の身上相談

※DV被害男性のご相談にも応じます。

相談専用電話

076-220-2554 月～金 9:00～17:00

秘密は堅く守られます。

特別相談 要事前予約

女性弁護士による法律相談 毎月第1火曜午後、第3金曜午後
臨床心理士による心の相談 毎月第2木曜午前
カウンセリング 毎週木曜

金沢市男女共同参画都市宣言 平成25年12月16日 金沢市議会議決

私たちのまち金沢は、市民一人ひとりが、歴史と伝統に学び、個性豊かな風格と活力のあるまちづくりを進めてきた。すべての人が性別にかかわらず尊重される社会の実現のためには、市民一人ひとりが互いの違いを認め、あらゆる分野に平等な立場で参画する機会が確保されるとともに、国際社会における取り組みと協調し、連携を深めていくことが重要である。よって、私たちすべての市民は、次代を生きる若者や子供たちが個性と能力を発揮できる未来とするため、男女共同参画都市となることを宣言する。

令和3年9月発行



金沢市男女共同参画

ささえあって 輝いて あなたもわたしも未来へ向かって

るうぶ

今号の特集

男性がつなげる
地域の子育ての輪



お問い合わせはこちらまで

金沢市ダイバーシティ人権政策課

076-220-2095

発行：金沢市ダイバーシティ人権政策課

〒920-8577 金沢市広坂1-1-1 TEL 076-220-2095 FAX 076-260-1178

Email: jinken@city.kanazawa.lg.jp

URL https://www4.city.kanazawa.lg.jp/22075/danjo/index.html

編集：子育て向上委員会



るうぶ(ループ)は「輪」という意味で、市民が手をつなぎ、男女共同参画社会づくりをめざし、交流の輪を広げてほしいという思いを込めて命名したものです。

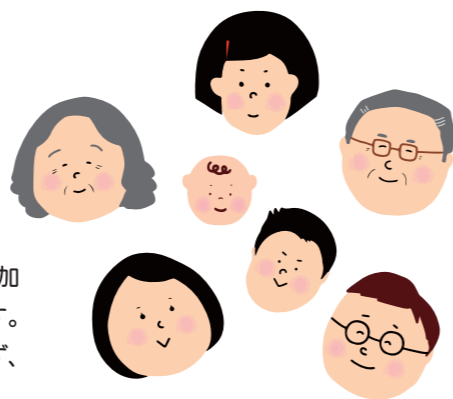
金沢市
男女共同参画情報誌

2021
VOL.46

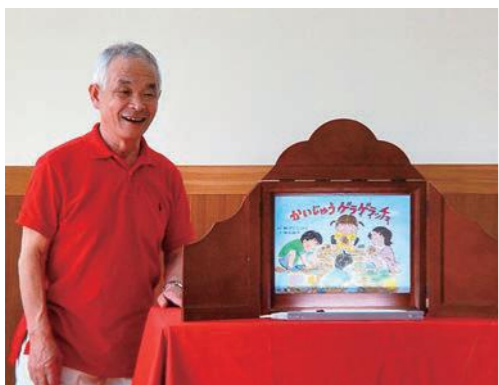
男性がつなげる 地域の子育ての輪

仕事と家庭の両立は、男女を問わず推進していくことが求められる課題です。男性の育児参加を促すため、今年6月に育児・介護休業法が改正され、来年4月以降、段階的に施行されます。育児に関わる男性は以前より少しずつ増えてきていますが、金沢市には自分の子どものみならず、地域の子どもたちにも関心を持ち、活動している男性たちがいます。

活動内容や始めたきっかけ、課題などをお聞きしました。



30代で紙芝居に出会い、子どもたちの笑顔に背中を押されて今日まで



お行儀なんて悪くていい、ただリラックスしてほしい

家事は得意です。私の年代では家事をする男が珍しかったので、よく同僚から「男の敵」と言われました。読み聞かせ、洗濯、料理等、男だからできないことなどありません。4人兄弟の長男だったので、母親に仕込まれました。天ぶらを揚げるのを手伝ったり一緒に洗濯をしたり、自然に学べたので、母親には感謝しています。結婚してからも同じく教員である妻と家事を分担していました。退職後は私がメインで担当していた時期もあります。

紙芝居に出会ったのは金沢大学教育学部附属養護学校に勤務していた32歳のとき。朝の会で絵本を読んだり歌を歌ったりするのですが、他にも何か面白いことができないかと教室の中を探していたところ、鉄腕アトムの紙芝居を見つけました。紙芝居など読んだこともなかったけれど、子どもたちの前で披露してみたら、反応がすごくよかったです。以降、どんな風に読んだら喜んでもらえるか試行錯誤を重ねてきました。

勤務先が変わっても紙芝居は続けました。学校とはルールが多く存在する場所です。でも、紙芝居の時間だけはリラックスタイムにしたかった。お行儀なんて悪くてもいいんです。子どもたちがホッとできることが何より大事なんですから。

一回一回を一生懸命にやってきたことが縁につながった

退職を数年後に控えたころ「この先どう人生を送ればいいのか」と考え始めました。ある人から「お前には紙芝居しかない」と言われ、その言葉に勇気づけられ、「紙芝居をもっと広めたい、読み手を増やしたい」との思いで『のまひょうしぎの会』を退職前に立ち上げました。現在は県内7か所で行なっています。メンバーは女性がほとんど。男性も増えるといいんですけどね。男性は定年まで仕事一本やりで生きてきたら、その後の切り替えが大変です。現役時代から何か少しでも始めておけば、退職後の充実につながりやすいと思います。

紙芝居を通して、県外や海外とのつながりもできました。いろいろなご縁でシンガポールや上海など毎年のように呼んでいただいています。一回一回を一生懸命、手を抜かないでやってきたことが、このような縁につながりました。

子どもたちの前に立つときは今でも緊張します。どんな子たちがいるだろう、どんな風に見てもらえるだろうと。でも第一声を発して、笑顔を見ることで緊張がほぐれていくんです。私は多くの子どもたちに育ててもらいました。もうすぐ81歳。期待に応え続けられるよう、体力をつけて元気でないといけないと思っています。



のまひょうしぎの会
野間 成之さん

地域コミュニティの課題を探り、連携しながら解決につなげたい



人のつながりが薄れ、見えないところで困っている人たちがいる

金沢大学大学院を卒業後、そのまま任意団体『杜の里スポーツクラブ』の立ち上げに携わりました。活動を進める中で、地域のつながりが生まれ、さまざまな課題が見えてきたことで、できることの幅を広げるべく『クラブぽっと』というNPO法人に移行しました。

今は昔と比べ、地域活動が衰退しつつあります。同じ地域に住んでいながら、多世代の交流がほとんどない。人のつながりが薄れ、見えないところで困っている人たちがいる。そこで、社会の変化の中で失われているものに地域課題としてスポットを当て、あらゆる年代が同じ空間を共有できるような、自然な形でたまり場の再現を始めました。

土曜の午前は小中学生向けの学習支援を行なっています。保護者の方から「子どもが宿題をやらない」という相談を受けたのがきっかけです。反抗期に差し掛かると、宿題ひとつで親子間のコミュニケーションが悪化しかねません。「最低限宿題を終わらせよう」という目的ですが、子どもたち自身に探求心が芽生えたり、勉強を教え合ったりと、密かに願っていたプラスアルファができつつあります。午後からは外で遊ぶ時間を設け、外遊びの楽しさを伝え、子どもたちだけでも展開していけるようなきっかけづくりをしています。自分の子どもも『クラブぽっと』の行事に積極的に参加しています。



単発ではなく長いスパンで地域に関わっていききたい

ここは元気なお父さんが多い地域です。近隣に小学校がいくつかありますが、「保護者会としてこんなことをやりたいので相談に乗ってほしい」と積極的にノウハウを聞きに来られます。クラブぽっとがハブとなってつながりが生まれ、ノウハウを持ち合っただけでできたり、補完し合える仕組みができました。自分たちだけでゼロから作るの大変。でもできることを持ち合ったら労力は減らせます。そんな発想が広がっています。金沢大学が近いので、学生と地域の男性をさらにつなげたいですね。双方にとって刺激になるはずですから。

子どもの自然体験活動やスポーツには大いに力を入れています。教育や福祉やスポーツを通して、地域の課題解決につなげたい。50年後、今の子どもたちが高齢になるころ、この地域に住む人たちがいきいきと暮らせているように。単発ではなく長いスパンで地域がどう成長していけるかを考えています。



特定非営利活動法人
クラブぽっと
森 亮太さん

コロナ禍でも保護者としてできることを模索する

男性が得意とする分野で、子どもたちの関心を引き出す

2019年までは父親が中心となって、野菜の栽培やバーベキューなどを行っていましたが、コロナ禍の2年はさまざまなイベントが中止を余儀なくされました。そんな中でも何か子どもの思い出づくりになることがしたいと、昨年は保護者会でサイエンス教室を企画。初めての試みなので先生探しからのスタートです。サイエンスヒルズこまつへ出向き、交渉を重ねて、講師の方を派遣してもらい、サイエンス体験を楽しむことができました。私自身が会計を担当していたこともあり、従来の予算の使い方からの課題が見え、よりローコストになる方法や、全園児に利益が行き渡る仕組みも考えられたので、次年度につなげていきたいです。

保護者会役員の3分の1は父親です。現会長はプログラミングを教える仕事をしているので、「プログラミング教室をして、みんなでロボットを動かしてみよう」という案も上がってきています。保護者会に男性も女性もいると、得意とする分野に広がり生まれ、子どもたちの関心や興味の幅を広げるチャンスにつながると思います。園における父親の活動は、母親側の負担が減るという面もありつつ、本分は子どもが豊かな生活を送るためのもの。先生方だけを頼るのではなく、親として貢献できる部分はしていきたいなど。現在は保護者会とパパ会がより活動しやすく、より有益な形になるよう、再編も含めて模索していきたいと思っています。



光こども園パパの会
田中 亮太さん

